

# 未利用材をどう使うか

## 国産広葉樹利用の可能性

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 渡辺 圭

など、他にはないものとなり、このよ  
うな材でも付加価値をつけたものとし  
て充分使っていくことができると感じ  
ました。好みが分かれるところもある  
かと思いますが、私としては満足のい  
くものができました。

現在コロナ禍ということもあり、広  
葉樹の原木を海外に買い付けに行くこ  
とができない状態だと聞きました。こ  
のような状況下ではなくても、いろい  
ろな社会情勢に左右される輸入材に比  
べ、地域経済にも利益をもたらすこと  
のできる国産材、地域材の需要はこれ  
からどんどん高まっていくと思われま  
す。ただし、北米やヨーロッパ産のよ  
うな大径で通直な材は国内にはほとん  
ど残っていないため、小径木やこれま  
で山側も価値を見いだせなかったよう  
な材をどう活かして使っていくかとい  
うことは大きな課題になっていきます。

家具や木工品のつくり手は、これま  
でのように作ったものを売っていくと  
いうことに加え、森林資源や木材流通  
の現状を知り、木製品を通じて消費  
者に伝えていくという役割を担ってい  
く必要があると思います。なぜなら一  
番消費者に近く、手に取れる作品を実  
際に作り出すことができる説得力のあ  
る立場だからです。産地がわかり、伐  
採や流通業者の顔の見える材を使っ  
ていくことも大きなアピールポイントと  
なるのではないのでしょうか。私自身も  
まずは抽斗の前板として使うことから  
始めましたが、これからも様々な個性  
のある国産広葉樹材のもっと魅力的な  
活用方法を考え、形にしていきたいと  
思っています。

昨年材料購入で伺った高山市の株式  
会社カネモクさんで、変わった材を見  
かけました。樹皮が変異して複雑に入  
り組んでいるミズナラ(写真1)です。  
カネモクの森本社長が何に使えるかは  
わからないけど珍しいので使ってみて  
くださいと何枚か分けてくださいまし  
た。幅も狭く用途としては限定されま  
す。真っ先に思いついたのは抽斗の前  
板。言ってみればありがちな用途なの  
で、もっと面白く予想もつかないよう  
な使い方はないかと考えていました。



写真1

私は今年度、教員としてアカデミー  
に来る前までは福岡県の北九州で家具  
工房を営んでいました。これまで私が  
作ってきた家具に使う材は、主にロ  
シアや東欧から輸入した大径のナラ材  
で、節や割れなどの欠点がないもの  
を選び、木目もなるべく通直なものを  
使ってきました。理由の一つは永く  
使っていくときに反りや割れなどの不  
具合がでてしまうリスクが低いとい  
うこと。また、オーダーメイドの場合こ  
れまでの家具の写真や現物をお客様に  
お見せして出来上がりのイメージをし  
てもらうのですが、均一な材を使うこ  
とでそのイメージから大きく外れるこ  
とのないものを作ることができるとい  
う面もあり、私自身もスッキリとした  
表情の家具が好みということもありま  
した。

前置きが長くなりましたが、つまり  
は前述のミズナラの材のような个性的  
なもの、予想もつかないような使い  
方を考える前に、抽斗の前板として  
使ったこともなかったのです。そんな  
折、タイミングよく木工専攻で小抽斗



写真2



写真3

製作を年間のカリキュラムに入れよう  
という話があがり、そのための試作を  
作ることになりました。まずはあの板  
をいろいろと考えるよりも前板として  
使ってみようと思いい、サンプルを製作  
しました(写真2)。本体部分はトネリ  
コ、取手は黒檀です。特に樹皮が複雑  
な部分を選び、一部貫通している部分  
もあります(写真3)。

均一で通直な材で製作する場合、節  
や曲がりなどがあると小さなものでも  
欠点として認識して避けようとしてし  
まいますが、个性的な材の場合はどう  
やってそれを活かそうかと考えます。  
材をどこにどう使うかを選ぶ際にも手  
間がかかり、加工にもそれなりの注意  
を払う必要がありますが、木目や模様